

今朝も皆さまとともに主を礼拝できますこと、感謝します。エペソ人への手紙を今日も読んでいきます。前回は、神の武具の最後に教えられている「祈り」について教えられました。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

どんな時も、どんなことでも神さまに信頼し祈っていく。自分のためだけでなく他の人のためにも祈ることを教えられました。そして忍耐の限りを尽くして祈ること。苦難の中も忍耐し祈り続けること。失望することなく祈ることの大切さをともに教えられました。

互いに祈り合う幸い

今日の箇所では、この手紙を書くパウロが自分のためにも祈ってほしいと伝える言葉が語られています。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

私のためにも祈ってくださいとパウロは語ります。パウロが私のためにも祈ってくださいと語る。このことにまず注目したいと思います。エペソの人たちにどんなときも御霊によって祈りなさいと語るパウロは、何よりもこの祈りの力、祈ってもらうことの大切さを知っていました。私のためにも祈ってください。祈ってほしい。そうパウロは語るのです。

パウロ自身、エペソの人たちのために祈っていると、この手紙で語っていました。1章15-16節

こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています。

祈る時には、あなたがたのことをことを思い絶えず感謝している。そうパウロは言いました。どんな時も、エペソの教会、そこにいる一人ひとりを覚えて感謝し、彼らのために祈っている。そのようなパウロの姿です。このパウロが、手紙の最後に当たって私のためにも祈ってくださいと語る。ここに祈り合う交わり、教会の豊かな交わりを私たちは見ることができます。相手のために祈るだけでなく、自分もまた祈ってもらう。互いに祈り合う交わりを聖書は私たちに教えているのです。

私たち教会の交わり、キリスト者の交わりは、祈り合う交わりです。イエスさまはこう約束されました。マタイの福音書18章19-20節。

まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。

二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。

私たちが心を一つにして祈る時、天の父がそれをかなえてくださる。私たちがともに集まり祈る時、そこにイエスさまがいてくださる。これが聖書の約束です。悪魔の策略ということについてこれまで考えてきましたが、それに対抗する一つの大切なことはこの教会の交わり、とりわけ祈りの交わりであると思います。私のため祈ってください。そう率直に語ること、人に祈ってもらい、私も人のため祈る。そのようにして私たちは信仰の歩みを進んでいきます。誰かに祈ってもらうこと。祈ってくれている人がいること。それが私たちの力になる。どんな苦しみや困難の中でも、あの人が私のために祈ってくれている。そう思えるだけで、どこか心が軽くなったり明日を生きる力が湧いてきたりする。そのようなことがあると思います。

先月私は休暇をいただいて、日曜日は他の教会の礼拝に出席してきました。かつて独身時代に私が通っていた教会です。3年前にも奉仕で呼んでいただいた茅ヶ崎同盟教会という教会ですが、今回家族を連れて初めて伺いました。10数年前に通っていた私のことを覚えてくださって、新しい方ももちろんおられましたが久しぶりの再会と、また家族にも会っていただくことができて本当に幸いな時でした。その教会の方々にも「先生のため、ご家族のためいつも祈っていますよ」と声をかけていただいて、ずいぶん前にその地を離れた私のために続けて祈ってくださる方がいると励まされたことでした。この八千代聖書教会の皆さんももちろんそうですし、他の教会の方々もまた、私たちのため私のためあなたのために祈ってくれている。全ての聖徒のために祈ることを先週は学びました。私たちは全ての聖徒のために祈る。私たちもまた祈られている。互いに祈り合って歩むことのできる幸いに私たちは生かされていることを、今朝もまた覚えてまいりたいと思います。たとえ物理的には離れていても、声を聞くことや姿を見ることはなかなかできなかったとしても、私たちは祈りでつながっている。互いに祈り合うことのできる幸いを覚えて、他の人

のためにますます祈る者でありたい。イエスさまを中心とした祈りの交わり、あなたのために祈っています。私のためにも祈ってくださいと正直に素直に言うことのできる私たちとますますされていきたいと思います。

福音を大胆に

そしてパウロは、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってくださいと語りました。もう一度、今日の19節。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

パウロがエペソの人々に祈ってほしいと願ったこと。それは自分が福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、ということでした。次の箇所を見ると分かるように、パウロはこの時鎖に繋がれていました。イエスさまを信じ福音を伝えるゆえに捕えられていたパウロ、囚人であったパウロが願ったこと、祈ってほしいと語ったことは福音の奥義を大胆に語ることであった。ここに伝道者としてのパウロの生き方を私たちは見ることができます。福音を語る。それも大胆に福音を知らせることを願い求め、そのために祈ってほしいと語るパウロ。福音の宣教のため命をかけ、情熱を注ぎ、それを最も大切なこととするパウロの姿を私たちはここに見るのです。

ここに福音の奥義という言葉が出てきます。これはこのエペソ人への手紙の一つのキーワードと呼べる言葉です。これまで何度かこの福音の奥義という言葉が登場しました。この手紙の冒頭で、パウロは福音の奥義をこう語っていました。エペソ人への手紙1章7-10節。

このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

この恵みを、神はあらゆる知恵と思慮をもって私たちの上にあふれさせ、

みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。その奥義とは、キリストにあって神があらかじめお立てになられたみむねにしたがい、

時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。

福音の奥義とは、キリストにあって一切のものが一つに集められることだ。そうパウロは語っていました。一切のものがキリストにあって一つに集められる。ユダヤ人も異邦人も、どんな人もイエスさまのゆえに一つとされる。イエスさまの十字架の贖いと復活の力によって、私たちの罪が赦され、信じる者が皆一つとされていく。イエスさまのもとに全ての人が集められる。そのことが福音の奥義、聖書が語る福音の大切な教えであるということです。

この福音の奥義を大胆に語ることをできるよう、パウロは願っていた。そのために祈ってほしいとエペソの人々に伝えたのでした。福音の奥義を大胆に語る。どんな人もイエスさまのもとに来ることができる。イエスさまの十字架のゆえに、全ての人が神さまの元へと招かれている。それが福音の奥義です。あなたもイエスさまに愛され、その恵みに招かれている。どんな人も、イエスさまを信じるならば罪からの救いをいただくことができると、そう大胆に語ることをできるようパウロは祈ってほしいと願ったのでした。

私自身、この語るべき言葉が与えられるようにという願いは、切実な自分自身の願いでもあるなと思わされています。先日の礼拝で菊池先生がご紹介くださいましたが、私の祈り会での祈祷課題の第一はいつも、主日の礼拝の説教のことです。毎主日の礼拝の中で語るべき言葉が与えられるように。それは私の願い、皆さんに最も祈っていただきたい事、そしていつも祈っていただいている事柄です。また今日はこの後宣教区の青年キャンプでの奉仕もありますので、そこでもみことばを相応しく語れるようにと、語るべきことばが与えられるように祈っていただけたらと思います。

そしてこの福音の奥義を語ることは私のような牧師や伝道者だけのことではなく、私たちすべてに委ねられている働きである。私たちが遣わされる場所で、家庭で職場で学校地域で、福音の奥義を語るべくそれぞれが召されている。そう言うことができます。パウロは自分が口を開くときに、と言いました。説教を語る時とか、何か人前で弁明する時だけでなく、自分が口を開くときに。どんな時にもこの福音の奥義を語る言葉が与えられるようにパウロは祈ったのだということです。私自身も講壇の上だけでなく、どんな時も福音を知らせる言葉が与えられて、それを語ることをできる者でありたいと思わされますし、皆さんもそうだと思います。大胆に福音の言葉、神さまの恵みをいつも語ることをできる私たちでありたい。そう願います。

時には直接的にイエスさまのことを伝える。また時には、そこまで直接的ではなくても神さまの恵みを証し、感謝する生き方を通してイエスさまの愛を表していく。また時には、あえて口を開かず相手の言葉に耳を傾けることを通して神さまの愛を表す。そんなこともあるでしょう。どのような形を通してでも神さまの愛が私たちを通して伝わるように、私たちの口を通して、言葉や行い、振る舞いを通して福音の奥義が伝わっていくように。神さまの愛が私たちの存在を通して私たちの隣人、家族や友人、同僚に証しされていくようにと私たちは祈りつつ、人との関わりや仕事、学び、それぞれの務めに励む私たちとされていきたいのです。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

私たちは今朝、このパウロの祈り願いを自分自身の願いとしてそれぞれの地へと遣わされてまいりたいと思います。語るべきことばが与えられるように。私たちを通して神さまの愛、福音の奥義が伝わっていくように。そのことを何よりも願い、またそのために互いに祈りつつ今週も歩んでまいりましょう。

お祈りをいたします。「天の父なる神さま。みことばをありがとうございます。私のためにも祈ってください。互いに祈り合うことのできる交わり。そこにある恵みと幸いを教えてくださりありがとうございます。他の人のために心から祈り、私たち自身もまた人の祈りに支えられて歩むことができるこの幸いを日々味わって生きる私たち八千代聖書教会とますますならせてくださいますように。パウロが大胆に福音の奥義を知らせることができるようにと願ったように、私たちもまた遣わされる地であなたの恵みを証していくことができますように。私たちのうちにおられる御霊が今週も遣わされる地であなたの恵みを現してくださるよう、私たちの言葉や態度、行いをどうか用いてください。あなたの恵みに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」